



阿蘭陀外科明鑑拔萃

目錄

一 附骨疽

一 多骨疽

一 石疽

一 緩疽

一 石榴疽

一 無疽

一 脫疽

一 風毒疽

一 風癰

一 風濕

一 鶴膝風

一 凍風

一 鵝掌風

一 癩瘡

一 骨槽風

凡十五篇

目錄終

阿蘭陀外科明鑑校萃

附骨疽

○夫附骨疽之症出於外腿邊且以手足瘡症也取以其始起者由秋夏露卧為冷折焉風熱伏結為附骨平疽也或久食厚味及勞役由酒後與水涉而得茲平陽滯陰之症皆是由寒濕地氣而得此症平其發狀相似賊風也然亦不大同既風邪氣搏於骨節其毒氣附着於骨而深沉也或久撲身惡血或瘡毒久結皆能成之也且其外流注敗成骨

癰亦過涼藥骨肉間凝滯則成骨癰始發乍寒乍熱無汗而痛無時徹尤深骨髓遇其寒則痛大也按是則應於骨皮肉微急洪如肥狀多足太陰脾太陽膀胱厥陰肝少陽膽陽明胃經皆能受是症或環跳穴痛不止者宜防生附骨疽也

○阿蘭陀曰是症始發時如風邪有寒熱難漸々動身似脚氣而亦別也醫師多誤為脚氣故內外相違而多為一生廢人無痊平物是症平肉腫肉無別身體手足硬堅痛甚

徹骨者危或腫不熱亦不赤兼膿危或口開後膿薄黃臭不痛止不腫減日日勞傷不食進口渴息短者尤平物浮發膿孰其難故唯宜浮發治療專當焉

○ハツハス方

- 一 フロウリスカモマイル 五錢
- 一 スミツメリロウト 五錢
- 一 フロウリスニルバ 五錢
- 一 ラアデキスサルテイ 十錢

一 ブランダアコ

五錢

○右細割水見合入焉煎去糟

一 セイモンヘチケレイツエ

十錢

一 セイモンリイチ

十錢

○右ニ味粉煎入煎汁如糊凍合瘡物能診考而申程ハ
ザリコニ塙錢之圖其上彼ハツバス當可卷置越成膿
能々見立可口明平或初發有膏藥付エニフラストムス
ラゲニラスデアキロニコムススイングエントデヤルテイヤ右

等分凍合演木綿可付之口間後有上膏藥用焉口間
出膿水者ラブメント可當平

○ラブメント方

一 アルワイ

三錢

一 レジイヌ

三錢

一 カチイル

一錢

一 メラ

三錢

一 ヒツトリヨウロニクルイデ

五分

一 フロウリスロウサ

六錢

一 ブランドヒイニヨ

百六十錢

○右煎如常シリガ以洗漏中食物鶏牛肉等可用焉

案是症多有朽骨能去其骨見仕縣在尤篇平矣

○多骨疽

○夫多骨疽之症有何種症或灸瘡不久痊腐深膿水恒出

不有藥應者是皆必在內朽骨其骨不出無痊平

○阿蘭陀曰是症先宜去腐肉フツヒリニアトハセリヨニ雜

合而可付之去西府見朽骨是時朽骨拔去正骨可捻

粉藥平

○粉藥方

一 ラアテキスイリヨウス

一錢

一 アルワイ

一錢

一 メラ

一錢

○右極末而骨捻懸其上メイキヤテキステイヒンラ堦可

當之惣是症治療時於不風入所療之平

○石疽

○夫石疽之症於何處出生始發時身色硬如石不切通不膿血出乃如死肉矣

○阿蘭陀曰欲早治先可截平截樣太寬也腐肉正肉之間切見定可截之也ニフラストラツフヤアタ付置一時可其後日截之不可忘生肉截若誤為之則忽血走瘰癧物虛々難治矣

○阿留麻奴須曰不截而治良平也ニフラストラニコロニヨコ

○ムスラケニフスメリロウト等分合可述付越或膿或散若為膿如恒可治之矣

○緩疽

○夫是症於何處出瘰癧物也初發狀軟瘰癧頭不硬似風毒瘰癧類也

○阿蘭陀曰是症初發先ムスラケニフスメリトウト雜合演木綿可付欲膿下ハセリコニ付上膏藥右同前平為膿治方如常矣

○石榴疽

○夫石榴疽多肘之上生一寸可上疽物也初者如粟粒根
大色赤硬猶石而後破皮中赤如石榴皮破粒々而流出
黃水久難痊平

○阿蘭陀月初發先ツラセウタ以隨順截破而出血ハセリ
コニテレメニテイ十或テキステイヒニ加メイキヤ堊貼瘡其
上ニテヤハルニ可打或年久腐廣粘著者ヲリヒツトリ
ヨウロニバゼリコニ加メイキヤ堊而付瘡去血肉思血以而

可加夫々療治矣

○兵疽

○夫兵疽始起者原皆血毒也其生狀創有如粟粒平亦不
生有痛平或爛更有痛引皆能手足生指在也赤亦在白
平白虛也赤熱也絶其痛甚謂平以茅痛強至指株腐行
其節々腐落矣

○案亦在代指五指更々痛者也月瘡蝕每月一指更々痛
者也俱皆瘡疽疫毒地榆并草等分水煎洗而后可在

見仕懸平

阿蘭陀曰是症難痛甚忍止最痛亦不易平或初發其色赤如痛癩太痛者

一 イシクエントカンフラアト

大

一 カンフル

中

一 スウトホウト

小

一 ラリロサアロニ

見合

一 辰砂

小

一 輕粉

中

右緩雜合痛處頻可墮之其後無利ラニセイタヲ以刺破指頭腸持取出血緩急亦不色赤痛

一 ゲニブル

一錢

一 タルラメル

一錢

一 ハイフル

一錢

右如糊磨合温之演木綿付着貼瘡

亦方

一 タルラマイル

二錢

一 ホウソク

二錢

○右凍合緩而頻可塗之平

○亦方

一 ヒツトリヨウロニヨラアル

一錢

一 アルユニ

一錢

一 スバンスクルウ

一錢

一 酢

見合

○右温可洗也、不分赤白用之平

○亦方

○不謂赤白、虚實付之矣

一 蜻 但去手足

三匹

一 黑砂糖

五分

一 フリルニゴリコウルニ

見合

○右磨合凍付、急痛止痊也

○脱疽

○夫脱疽之症極虛惡也。疔疽之重症也。初發見寒熱赤白，甚痛先ハツハス可當平ハツハス見其疽病門矣。

○阿蘭陀曰是症極而急症也。朝生夕死平輕日標疽重日脱疽眼前腐行如反手裡平始如粟粒痛甚早腐無膿也。燥臭難竄向其儘紫黑變而節々腐落遂其毒入腹而死平始發痛甚時先宜下用指瘡ラフメント可當也。

○ラフメント方

一 ツツヒリニアト

四分

一 ア、ヒラメント

四分

一 アルユンクルイデ

十六錢

一 ホウルスアルメンヤ

八錢

一 アントモウチクルイデ

八錢

一 カルコ

八錢

一 ブランドヒイニヨ

一升

○右合不氣出様煎之頻洗焉其後

○付藥

- 一 メイニ 二錢
- 一 ブランドロウト 四錢
- 一 アンテモウチクルイデ 三錢
- 一 ベレスヒタル 一錢
- 一 トシイヤヘレラアト 三錢
- 一 ラアビスカラメナアリス 二錢
- 一 イングエントカンアラド 四十錢

○右細末凍合其處塗付上テヤバルニ可付亦燥甚痛時テ

アデキスリヨウロニ熱灰中蒸焼温孰為稠執滴木綿付腫
 而拔去其熱毒時立地痛止也其後者イングエントバゼリ
 コニテレメンテイ十微加平メイイヤ塗而貼之上ムスラゲニテ
 ス付而補其虛潤其腐燥如此或見合ラメント以去
 惡血バゼリコニイケビシヤアコニカヘレスヒタル加付其
 腐截而後テキステイヒニ以痊之

○ラブメント方

- 一 ラアデキスナイ十

一撮

- 一 フウリアブセシテヨム 一撮
- 一 フロウリスカモマイル 一撮
- 一 アルワイ 五錢
- 一 ベレスビタアル 三錢
- 一 メラ 四錢
- 一 レシイヌ 四錢
- 一 フラントビイニヨ 一合

○右水入五合煎之去渣湯洗也

○風毒腫

夫風毒之腫症是病多世恥以其始起年久風邪隱伏皮肉骨節間而以生多午足初發在兩寒發熱頭痛多似脚氣大抵腿足發山初速不能腫漸滿腫如陽山而痛甚平阿蘭陀曰風發三症各有其異蓋風腫風濕二症乃新邪平但風腫其色不赤身色而生有病肉屬冷也風濕其色赤痛甚其病皮肉屬熱也風毒原昔風而適被為他病劫漸生故外發不速初發不高不赤而寒發熱心氣首鬱而

不鮮其病骨節筋脉乃屬虛寒是毒至久及遠年急燥發者變為付骨疽也

○治療之法初發唯宜發散專瘡物先酒一合酢六分合是熱而以漬布帛重疊搭之茲瘡頻々更換風毒邪氣毛穴拔去而其後以英古艾ントバセリコニ塗付瘡物一盃其上以ニフラストムズラゲニブス可打也是仕懸以多多可散也若越不散ハツス以可別膿散之ニ也

○ハツス方

- 一 フウリカモマイル 一撮
- 一 フウリメリロウト 一撮
- 一 フウリロウサ 一撮
- 一 フウリメンテ 二撮
- 一 タルラマイル 二合

○右酒五合酢三合水二合入之如恒一日二度三度可當之是無利

○亦方

一 フウリニルバ

一 撮

一 フウリメリロウト

一 撮

一 フロウリスカモマイル

一 撮

一 フウリメンテ

一 撮

一 フウリロウサ

一 撮

一 ラアデキスナルテイヤ 剉

一 撮

一 セイモシリイ子

一 撮

一 セイモシヘ子ケレイツ豆

一 撮

一 ゲニスル 搗碎

十銭

一 タルラマイル

五合

○右水七合酒五合入之煮是上様フウリルウタノ末一撮加如恒可當之右越不膿散コトス以牽浮下イシゴエントバゼリコシ塗速可膿若兼冷膿イニグエントバルサムバゼリコシ下可墮膿如常是症依處有骨出山風病腫症專ハツバス主之也

○風腫

○夫風瘰之始起皆是風邪則病新邪也

○阿蘭陀曰瘰風瘰之症其色身色如滿瘰陽山詳診考同
風毒篇平然風瘰浮見風毒沉形也

○治療之法初發先イシゴエントバゼリコニシズリカモマイル加交
合而瘰一盃堦之上エニブラストムズラケニブス可打平或
在以温散仕懸亦在以油平ラズリカモマイルラズリイベリ
コニ等分雜合之温可堦之右仕懸以若不散ハツバス可嘗
平

○ハツバス方

- 一 フウリルウダ 一撮
- 一 ラアデキスナルテイヤ 一撮
- 一 セイモンヘチケレイツ立 一撮
- 一 セイモンリイチ 一撮
- 一 フロウリスカモマイル 二撮
- 一 忍冬 二撮
- 一 ゲニブル 五錢

一 タルラメル

二合

一 ブラドヒイニヨ

三合

一 アセイテ

二合

○右一合如常煉合可留之平

○若是儻不散者早ゴムトス以牽淨可膿膿後治方如恒也

○風濕

○夫風濕之症風邪恥以濕締也故其色光腫而見赤熱為

痛唯宜拂風邪速濕導也

○阿蘭陀曰是症先初發以寒藥而可散之若不散早可以
温散仕懸平蓋インクエニトバゼリコニ同カンラアト等分
合之以是或ズリカモメルラリイベリコニスリロサカ
ニ右等分合之温付之是則温散也若越不散不消ハツハ
ス可當毒矣

○ハツバス方

一 フウリアルトミニシヤ

一撮

一 フウリルウダ

一撮

一 フロウリスロウサ

二撮

一 フロウリスカモメイル

三撮

一 タルラマイル

三合

一 フラドヒイニヨ

二合

一 アゼイテ

三合半

一 ゲンブル

三錢

一 フウリメニテ 粉後令

二撮

一 エリイヘリコシ

十錢

○ 右如恒持而可當之矣

○ 若是不消速牽淨之可膿為膿治法如常半

○ 鶴膝風

○ 夫鶴膝風之病多是仗血虛以生或風邪隱骨節而燥精血枯肉而漸成鶴膝唯宜濕神氣血以生於津液為專也
○ 阿蘭陀曰是症猶出足膝之症也如其狀節大而後先收平故名曰鶴膝風也蓋治療先宜以藥湯溫焉而祛其邪

來精血頻津液導平但有症兩異也濕熱膝腫赤寒濕
身也冷矣

○藥湯方

- 一 フロウリスカモマイル 三撮
- 一 フロウリスロウサ 三撮
- 一 フロウリスアルトニカ 三撮
- 一 フウリアゲセニテヨム 三撮
- 一 スミツメリロウト 三撮

- 一 デレイ 三撮
- 一 フルベイニ 三撮
- 一 カラチアトブロム 三撮
- 一 ブランドヒイニヨ 四合

○右水入七合其氣不出煎而後可糟去但ブランドヒイニ
ヨ後入也

○右煎藥入稱其中羌入足一時可温之其後シリカモメ
イルシリイヘリヨニ各等分合之温之痛處宜磨付平每

曰如是則良久可正治也此仕懸無利亦有術平

○方

一 メラ

一分

一 ミステキス

一分

一 ノウトムスカアト

一分五厘

一 蘂香油

一分

一 鯨白糞

五厘

○右各細末而調交別二分以白湯用之殘二分火薰而

薰煙向鼻騰ハツバス可當也

○ハツバス方

一 エニブラストテムニスイビン

十五錢

一 ヲリロサアロニ

七錢

一 コロクスヲリエニタアリス

三分

一 ゲイルハニナアユル

四枚

一 タルラメール

一合

牛乳味

一合

○右以緩火凍合宜當之物鶴膝專在寒虛濕熱是方宜
含熱症專當焉

○亦方

○當寒虛濕寒者平

一 五ニブラストコメリクウリヨ

大

一 五ニブラストメリロウト

大

一 五ニブラストムズラゲニブス

中

一 羊油

中

一 テレメンテイ十

中

○右煉合木綿厚迷之而貼膝若綿濕者下シリバツア
ヘレス塗之上右膏藥可貼之也是症常肉食可當焉平

一 鷄 鳩 鶉 鶉

○右好物也

一 鹿 猪 雀

○右禁物也

○凍嵐

○夫凍風之症俗曰霜凍平敢雖不難病不知其大要平
 難采正効故多與是一論蓋此症始起原既冬月雪中或
 衝方寒途而寒邪氣血相戰生血熱以成皆是寒邪濕毒
 氣血相搏義也以多不應寒藥不應熱藥惟切不外以平
 和藥也

○阿蘭陀曰是症初發甚痒故不得正以瓜瘡之時既濁汁
 流出而痛痒或亦偏痛也裏是時洒々惡寒翕々發熱是
 則寒濕含濕熱驗也或破潰或痒爛成瘡含膿類多在此

也初發色赤甚痒是時先宜以洗藥

○ラブメント方

- 一 ゲンブル 五錢
- 一 メシテ 一撮
- 一 フウリスカモマイル 半撮
- 一 ソウト 一撮
- 一 アルワイ 二錢

○右入水煎搗様ブランドビイニヨ少計入此後頻洗之平

其後拭去水氣、シリアセイテ、シリカモマイル合之、温之、
頻々可塗之、是諒、一定法也、若越無利、ヘツテ、ハナア、
アルユニ、少加、可塗之、餘亦、倣是、平或、ガ、ラ、ア、ド、アルユニ、
儻加之、在塗也、亦、既破、含膿、或、腐痛、類、越、專、イ、グ、エ、
ト、バ、ゼリ、コニ、至之、若、有、臭、イ、ケ、ビ、ア、コニ、加之、可付之、
或、含、微膿、時、アル、ニス、類、至之也、亦、一症、曰、雪切、俗謂、
疥也、尤、難、痊、有、奇、妙、方、也、

○方

一 ベツキ

二十錢

一 ニステキス

八錢

一 人油

見合

○右堅煉之入、疵、是諒、良方也

○鵝掌風

○右鵝掌、一症、俗、是、曰、石榴蟲、皆、是、生、于、足、裡、也、其、原、此、血、
濕、毒、也

○阿蘭陀、曰、是、症、初、發、甚、痒、後、痛、或、含、濕、毒、或、含、膿、在、痛、者、

治療、ラシセイタメ、以テ、々々、刺、是、出、水、其、跡、イ、グ、エ、ン、ト、イ、ケ、ビ
 シヤアコシ、中、ブ、ラ、ン、ド、ビ、イ、ニ、ヨ、大、ズ、ウ、ト、ホ、ウ、ト、少、可、加、温、之、宜、
 洗、之、平、其、後、ラ、リ、ハ、ン、ナ、ア、エ、ル、ラ、リ、ア、ゼ、イ、テ、各、一、錢、ア、ル
 ワ、イ、五、分、右、煉、合、可、付、之、若、是、不、痊、ラ、フ、メ、ン、ト、シ、モ、ツ、テ、ス可、用、也

○ラフメント方

- 一 早稻藁 二撮
- 一 フロウリスカモマイル 一撮
- 一 水盆 五合

○右煎去糟毎日洗之其跡イグエントテヤルテイヤ可付
 也亦持膿含濕其痛ホウクク塗止痛其後

○ラフメント方

- 一 ラアデキスキイナ 五錢
- 一 フロウリスカモマイル 五錢
- 一 フラントビイニヨ 三合
- 一 アゼイテ 五夕
- 一 アルワイ 三錢

一 阿仙藥

三錢

○右煎去糟温之洗其跡

一 ラリテレメニテイト

五錢

一 アルワイ

三錢

一 ラリアセイ子

三錢

一 ラリハニトアル

三錢

○右煉合可付之是諒至當之論也

○瘰癧

○夫瘰癧之核症相類世者甚多生其前後者名曰骨槽風
 頸邊缺盆降出根深硬者名曰瘰癧胸腋間降如蛤如馬
 亦者名曰馬刀瘡身軀手足間其形硬生於一者名曰結
 核數種相列頰經經走者名曰流注形一二而小者名曰
 梅核根淺和者名曰痰核也凡瘰癧之症皆是由怒氣憂
 思過多氣上逆而風熱邪氣搏於肝經氣結以結核蓋怒
 氣過多時傷肝既肝主筋縮結畜而為瘰癧少陽膽多氣
 少血病也不守禁忌展及陽明飲食養厚鬱氣積聚也

故手足收陽主之也

○阿蘭陀曰是症皆頸項間結聚成核平始如豆粒漸々如梅李累々大小無定或有寒熱皆耳上下左右宜在淺深虛實之別平是症初發ラニセイタ以截破以金瘡仕懸可治焉平

○愚案阿蘭陀一流之定法雖如是未見其治術如茲破術於和東難要用也然於阿蘭陀以破術常得理矣案其人鬱氣遠也專主飲食熱物乎故阿苗滿奴須先生按和而

創干法初發先十イ十又忍冬等分水煎恒用焉然虛症而津液燥人忌焉其者忍冬大香附子中煎之入酒用之替茶其外ラリテテンテイ十可塗平其外

一 ラリカノフス

一 ラリナアカラ

一 ラリカチイル

一 ラリカモマイル

一 ラリイベリコン

一 ラリソクスイ子

一 エニブラストラシコロシヨシ

一 エニブラストムズラゲニブス

一 エニブラストコムドス

一 エニブラストメリロウト

一 エニブラストバゼリチルホウロム

一 エニブラストコメリクウリヨ

一 エニブラストアルミス

一 イングセントヤルテイヤ

○ 右之内量宜加減而可當焉

○ 瘰癧生漏久則是曰氣種常流膿水難痊平蓋氣種者氣血之虛種謂義也氣種者有滿種也只宜補氣血平拂鬱散氣救療專內外主之平若氣鬱則既為癧病而不治為不救癧病故強藥亦忌之也

○ 愚謂瘰癧之症宜布藥輕為灸也其後鬱閉結緩膏油以直灸大忌若誤感之為癧病日常以和解溫補油膏也

シリカノフステレメンテイ十等分合下塗上シリコロシヨ
ニ付之常得効也

○藥灸方

一 蒜 磨碎 一 枚

一 川芎 粉而 五分

一 山梔 粉而 五分

○右一合而如糝丸一大錢厚核之上附其上灸之見焦
更之平

○實生人者可下其沉毒瘡去勢健也

○フルガアニヤ方

一 テバルバ 十錢

一 コロクスリエンタリス 三錢

一 ラアデキスチイ十 二錢

一 ラクリカンギリ 三錢

一 ベレスヒタアル 五分

○右細末磨合一度自一錢至三錢即時水以用焉

○骨槽風

○夫骨槽之瘰癧多，是風痰毒氣久隱筋骨，而以生，平皆耳。前頤項之邊生，初發惡寒發熱如瘰癧。若重則口塞，食難。瘰癧處筋骨痛，漸瘰癧口中腐，入時不食，死也。

○阿蘭陀曰：是症初發，先以クウスコメリクウリヨ付可散。若越不散，コメリクウリヨ水銀麝雜，屢木綿付之，其上酢酒等分合之，温漬，木綿付上，越不散，コメリクウリヨムスラゲニス等分合，可付之。越無利，コムス可付，平膿，宜可啓。

若常，ラリスウトアミト，每服一二匙，以白湯賜下，膿漬。後治法如洎也。

